

1 園地の発生状況

- 黒星病の発生を確認した園地は、前回調査同様9園地で、調査を始めたR2年度以降、最も多くの園地で発生を確認しました(図1)。

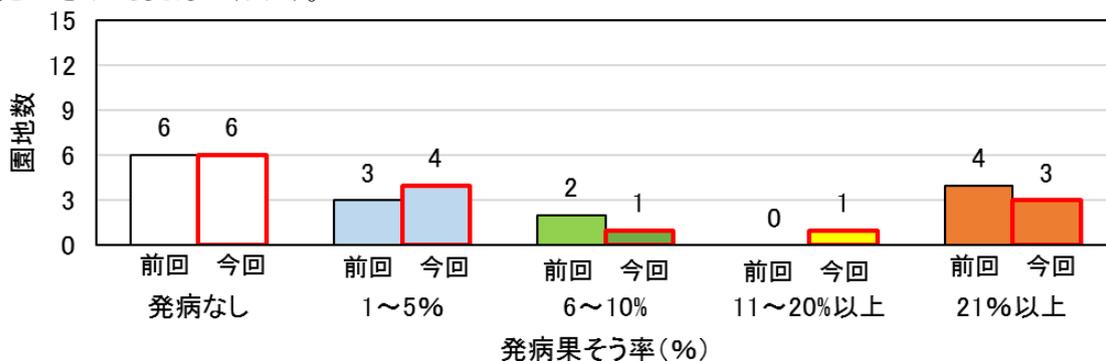


図1 15園地の発生状況 (今回調査8月18日、前回調査8月4日)

2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移

- 収穫中の15園地を平均した発病果そう率は12.1%で、前回調査の20%から減少しました(図2)。

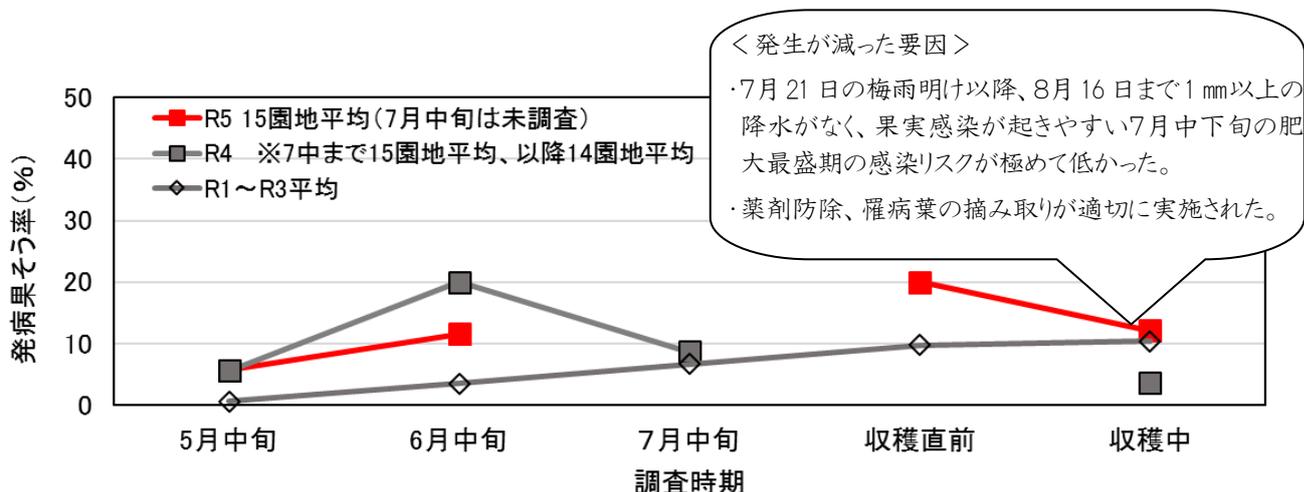


図2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移
 ※R5年7月中旬、R4年収穫直前、R3年7月中旬、R1年5月中旬は未調査

3 発病部位

- 前回(8/4)調査に比べ、果実被害が増加しました。(図3)。

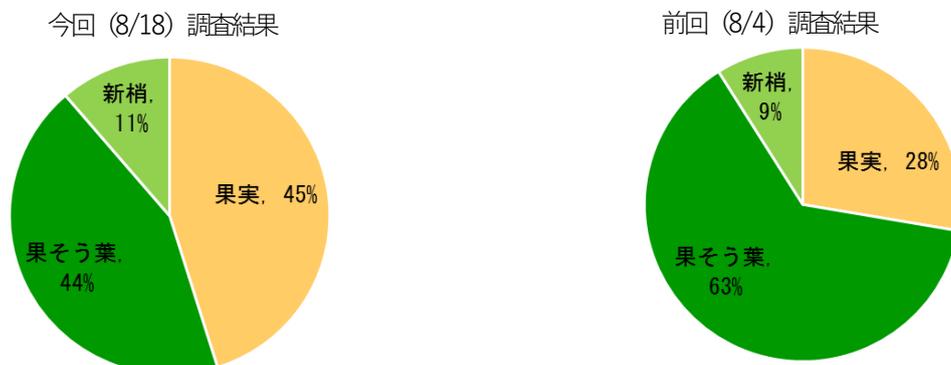


図3 発病部位別の発生状況

これらからの2次感染(秋型病斑の発生)を減らすために、今後も摘み取りや防除を継続して行いましょう。